

令和元年（ワ）第21824号 国家賠償請求事件

原告 デニズ・(閲覧制限)

被告 国

準備書面(4)

令和3年2月25日


東京地方裁判所民事第1部合1係 御中

被告指定代理人


川 端 裕 子 

高 橋 昌 寛 

石 川 直 人 

星 野 吉 広 

飯 田 一 徳 

潮 田 洋 次 

被告は、令和3年2月5日の口頭弁論期日における裁判所の訴訟指揮を踏まえ、乙第23号証添付のDVD映像に撮影された入国警備官らの特定について、以下のとおり主張する。

なお、略語等は、本準備書面で新たに用いるもののほかは、従前の例による。

第1 入国警備官らの特定について

令和3年2月2日付け被告準備書面(3)(29ページ)で述べたとおり、被告は、原告の居室(3B202号室)内を撮影した映像の鮮明化を試みたものの、居室内の状況を確認できるまでには至らなかった。

そこで、今般、入国警備官A、入国警備官B、入国警備官C、入国警備官E及び乙第10号証の報告書を作成した入国警備官の合計5名に対し、乙第23号証添付のDVD映像を視聴させ、人物を特定できるか否か等につき聴取した。その内容をとりまとめた報告書が乙第24号証であり、映像上、入国警備官の特定ができたのは4場面に限られた(乙第24号証添付の画像1ないし4〔1分49秒の入国警備官B及び入国警備官C、同2分08秒の入国警備官C及び乙第10号証を作成した入国警備官、同3分16秒の入国警備官A、同3分42秒の入国警備官A及び入国警備官C〕)。

以上